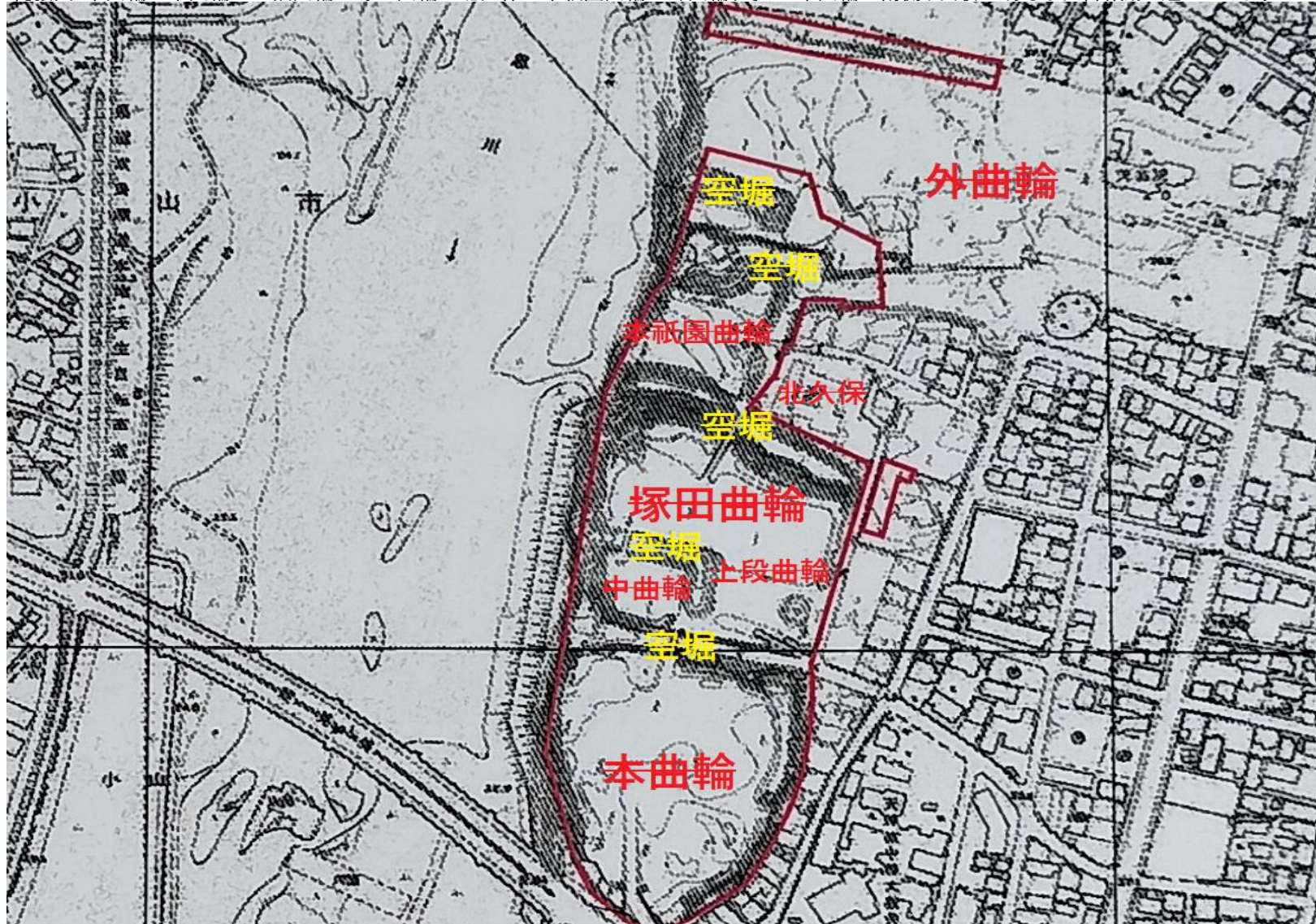


祇園城跡(小山市)

縄張図/本曲輪～中曲輪～上段曲輪～塚田曲輪～北久保～本祇園曲輪～外曲輪、そして本曲輪の南側(下方)にある小山御殿跡と進んでみよう！



鎌倉幕府成立に貢献した、名族小山氏の祖となった小山四郎政光が、久安4年(1148年)に築城したもので、史跡公園として保存・整備されている/
これは西側の天然の要害である思川越しに見た祇園城跡/右手が本曲輪、左手が外曲輪方向

 [video](#)



右手前が本曲輪、左奥が外曲輪方向

 [video](#)



ここは公園となっている本曲輪への導入路

 video



公園の再整備中のだ



本曲輪/正面に石碑が立っている

 [video](#)





公園の導入路を見下ろしたところ



周囲には土塁が巡っている

 video



土塁の上から思川を見下ろしたところ



このように、ぐるりと土塁が巡っている

 video



その先もこんな塩梅

 video





これは本曲輪から中曲輪及び上段曲輪へと空堀を渡る現代の橋

 [video](#)



橋の上から右手の空堀を見下ろしたところ/現在は道路となっている/右手が本曲輪、左手は上段曲輪

 video



同じく、橋の上から左手の空堀を見下ろしたところ/左手が本曲輪、右手は中曲輪/この先は思川の河川敷となっている



橋を渡って、振り返って本曲輪方向を見たところ

 [video](#)



その空堀を東側から西方向に見たところ/前方に橋があり、その先が思川の河川敷/左手が本曲輪、右手は上段曲輪

[video](#)



そこで、左手の本曲輪の城塁を見たところ



同じく、右手の上段曲輪の城堡を見たところ



橋の向こうに思川の流が見える



こんな塩梅



ここが思川の河川敷



そこで、振り返って東方向を見たところ

 video



こちらは左手の中曲輪の城堡



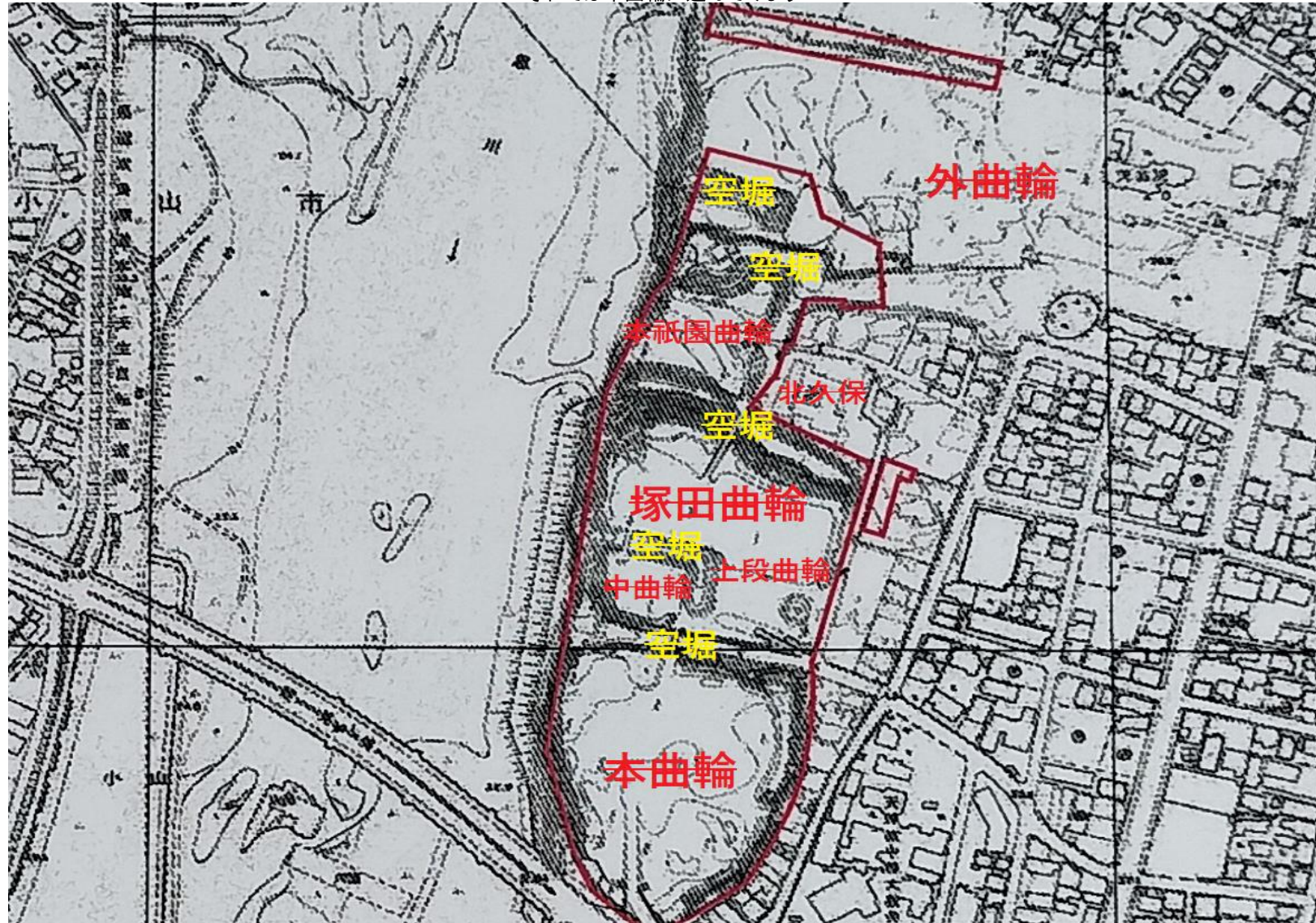
同じく、右手の本曲輪の城塁



西側から橋を見上げたところ/右手が本曲輪、左手は中曲輪及び上段曲輪



それでは中曲輪に進んでみよう



橋を渡って右手を見たところ/こちら側が上段曲輪



同じく、左手を見たところ/こちら側が中曲輪



中曲輪/東側から西方向に見たところ/背後には上段曲輪との間の空堀がある

 video



振り返って、橋を見たところ/虎口の感じが出ている

 video





西側から中曲輪を見たところ

 video



そこで、振り返って思川方向(西方向)を見たところ



その左手を見たところ



同じく、右手を見たところ/前方に橋が見える

 video



この橋を渡ったエリアが塚田曲輪



これが中曲輪と向こうの塚田曲輪との間の空堀を渡る現代の橋/当時もこのような木橋が架かっていたのかもしれない



「本丸橋」とあるが・・・



その橋を渡って、振り返って中曲輪方向を見たところ

 [video](#)



橋の中央で中曲輪を見たところ



そこで、左手の空堀を見下ろしたところ/右手が中曲輪、左手は塚田曲輪

 [video](#)

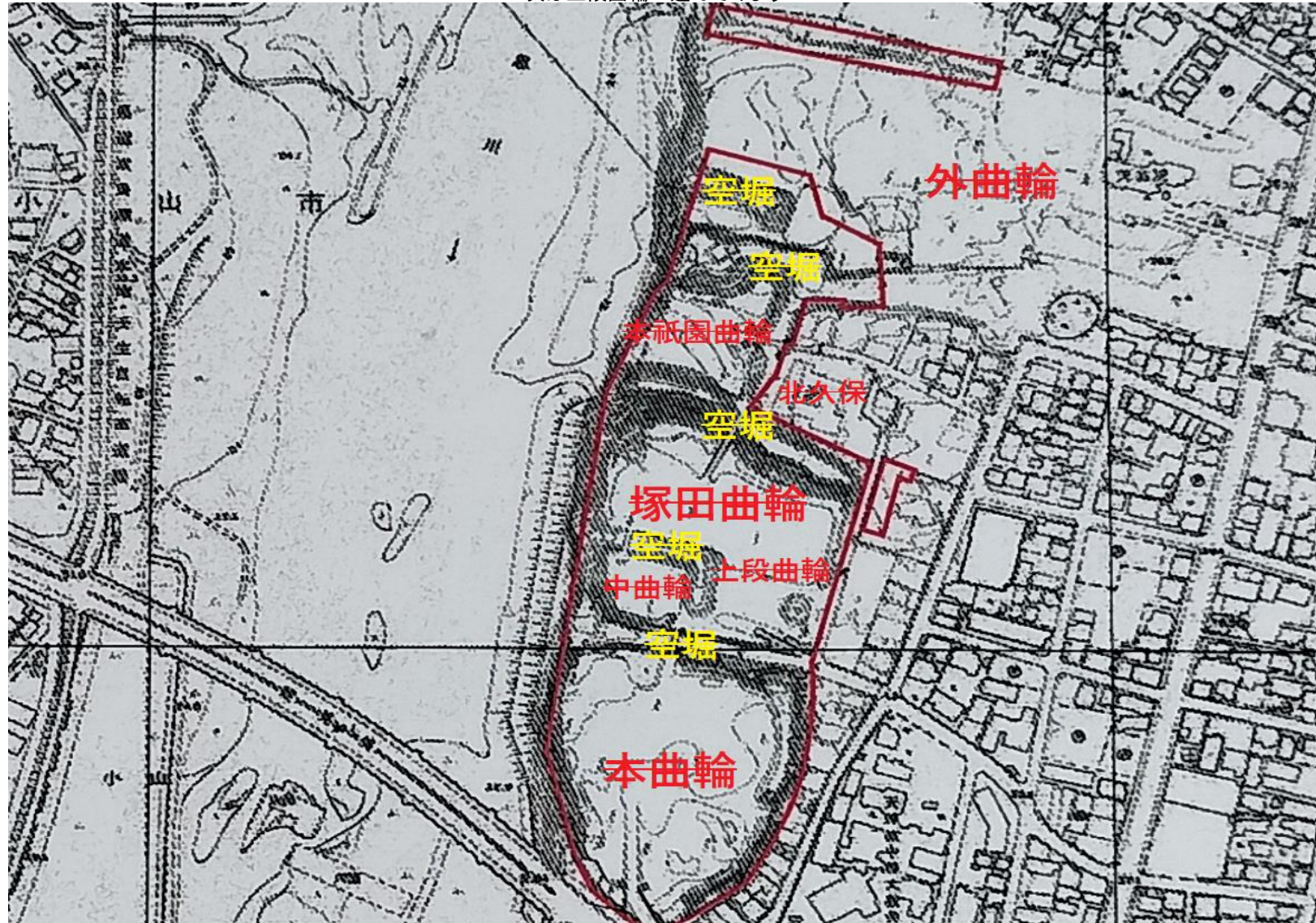


同じく、右手の思川方向に空堀を見下ろしたところ/左手が中曲輪、右手は塚田曲輪

 video



次は上段曲輪へ進んでみよう



上段曲輪の虎口辺りか・・・



振り返って橋を見たところ

 video



その右手が中曲輪の虎口

 video



上段曲輪/南側から北方向に見たところ

 video



そこで、振り返って本曲輪(前方)と上段曲輪との間の空堀を見下ろしたところ



上段曲輪とその北側にL型に続く塚田曲輪との境には、土塁のようなものは無く、塀などで仕切られていたのであろうか・・・

[video](#)



塚田曲輪/東側から西方向に見たところ/この左手が上段曲輪

 video





塚田曲輪/西側から東方向に見たところ/この右手が中曲輪



上段曲輪から塚田曲輪へと続く東側の土塁

 video



塚田曲輪を取り巻く土塁の北東角から見た塚田曲輪/左奥が上段曲輪

 video



そこで、左手を見たところ/右前方が上段曲輪/左下は城堡



同じく、右手を見たところ/右下は北久保との間の空堀



土塁上を西方向に進んで、振り返って見たところ/左下が北久保との間の空堀

 [video](#)



そこで、振り返って西方向を見たところ/手前にある塹壕のような部分を右手に進むと、本祇園曲輪及び北久保への現代の橋がある



その橋を見下ろしたところ/塚田曲輪と、本祇園曲輪及び北久保との間の空堀に架かっている

 video



塹壕のような部分を反対側から見たところ



そこで、振り返って西方向を見たところ/土塁は前方で左手(南方向)に折れて続いている

 video



左手(南方向)に折れて進み、振り返って土塁を見たところ/前方で右手(東方向)に折れている

 [video](#)



そこで、振り返って南方向を見たところ/前方の空堀の向こうは中曲輪/右下は思川側(西側)の城堡

 [video](#)



土塁上を更に南方向に進んで、振り返って見たところ

 video



これは塚田曲輪の南端に立つ「公孫樹(いちょう)」



小山市指定文化財（天然記念物）

公孫樹（イチヨウ）

公孫樹とは、イチヨウの漢名。このイチヨウは、漢名で呼ばれている。また、樹形の大きいことから、「城山公園の大きいちょう」とも呼ばれ、市民に親しまれている。このイチヨウについて、享和三年（一八〇三年）に書かれた旅行記『日光駅程見聞雜記』に、「古井戸の掘りたる近くに銀杏の樹あり 高さ三丈もある古木なり」とまた、文政年間（一八一八年～一八三〇年）の末頃に編まれた案内記『小山砂子』にも「御城山に今 古木となりて銀杏の木あり」との記載が見られ、ほぼ二世紀前、すでに古木だったと伝えられている。

祇園城落城の際、古井戸に身を投げて亡くなった姫君の霊が、かたわらのイチヨウに宿り、実を結ぶことがない、との伝説もある。そのためか、「実なしのちょう」とも呼ばれてきた。

イチヨウは、中国原産の落葉高木で雌雄異株、樹齢を長く保つことで知られている。中世代（二億三千万年～七千万年前）によく栄えた遺存種で、生きている化石とも言われている。

樹勢を回復するため、平成七年（一九九五年）に、名木リフレッシュ事業による手当てを行った。

樹高 約十五メートル 目通り約六メートル

枝張り 東西約十一メートル 南北約十二メートル

指定年月日 昭和四十年十二月二十一日
所在地 小山市本郷町一丁目五十一番地
所有者 須賀神社

そこで、振り返って北方向に塚田曲輪を見たところ/背後には中曲輪及び塚田曲輪と中曲輪との間の空堀が見える

[video](#)

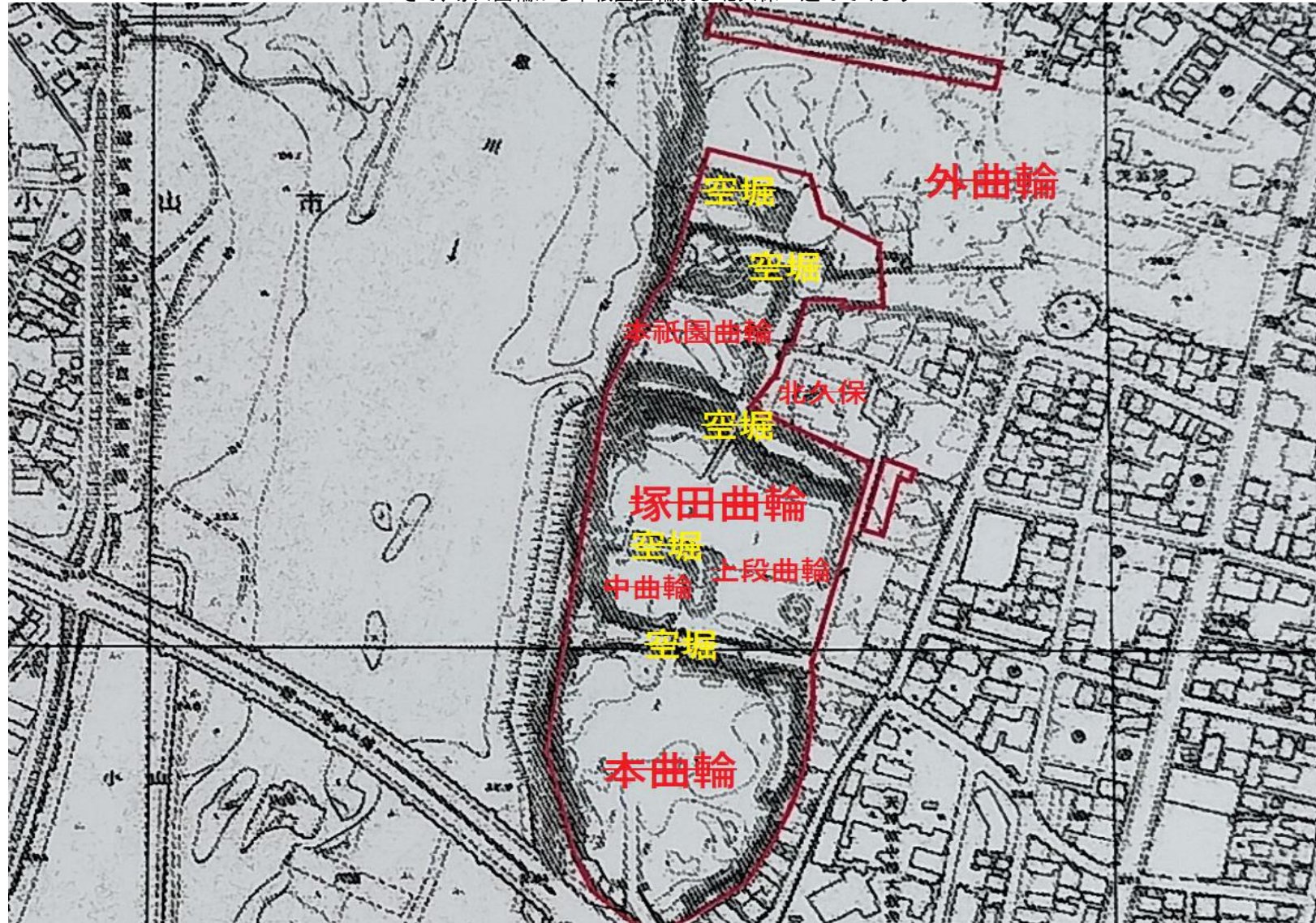


「公孫樹(いちょう)」の背後を見たところ/前方が中曲輪で、手前が塚田曲輪と中曲輪との間の空堀

 video



さて、塚田曲輪から本祇園曲輪及び北久保へ進んでみよう



塹壕のような部分を北方向に進む/両サイドは塚田曲輪の北側の土塁

[video](#)



これが塚田曲輪と、本祇園曲輪及び北久保との間の空堀に掛かる橋/当時もこのような木橋が架かっていたのかもしれない

 [video](#)



橋の中央で前方を見たところ/正面の現代の橋は左手の本祇園曲輪と右手の北久保との間の空堀に架かっている



そこで、右手の空堀を見下ろしたところ/右手が塚田曲輪、左手は北久保



振り返って、思川方向(西方向)の空堀を見たところ/左手が塚田曲輪、右手は本祇園曲輪



橋を渡って、振り返って塚田曲輪方向(南方向)を見たところ



そこで、振り返って北方向を見たところ/左手が本祇園曲輪、右手は北久保



そこで、左手を見ると本祇園曲輪への虎口のような地形がある・・・



同じく、右手を見ると階段を上ったエリアが北久保

 video



北久保/駐車場になっていた



「北久保跡」と記された看板が立っていた

[video](#)



南東角から見た北久保

 video



そこで、右後ろを見たところ/こちらが北久保の城堡



同じく、左後ろを見たところ/右前方は塚田曲輪/その手前は塚田曲輪と北久保との間の空堀



右後ろ側に下りて、塚田曲輪方向(南方向)を見たところ/右手前は北久保の城塁



これが塚田曲輪(左手)と北久保(右手)との間の空堀

 [video](#)



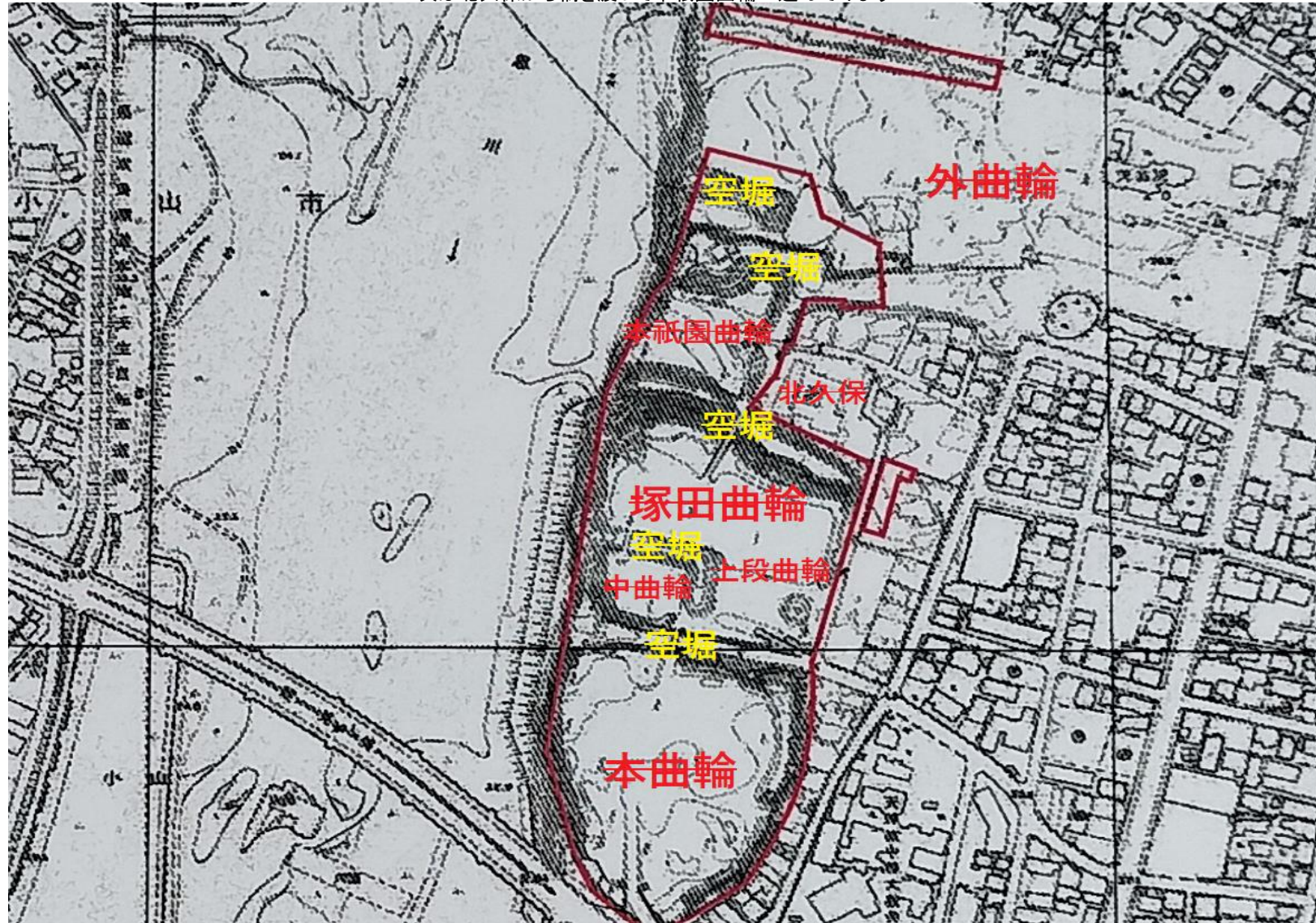
そこで、左手の塚田曲輪の城壘を見上げたところ



塚田曲輪方向に進んで、振り返って北久保方向(北方向)を見たところ/左手前は塚田曲輪の城塁



次は北久保から橋を渡って本祇園曲輪へ進んでみよう



これが北久保から本祇園曲輪へ渡る橋/当時もこのような木橋が架かっていたのかもしれない

 video



橋の中央で、右手(北方向)の空堀を見下ろしたところ/右手が北久保、左手は本祇園曲輪



同じく、左手(南方向)の空堀を見下ろしたところ/左手が北久保、右手は本祇園曲輪



本祇園曲輪/東側から西方向に見たところ

 [video](#)





空堀に下りて、南側から北方向に見たところ/右手が北久保、左手は本祇園曲輪

 [video](#)



その左手の虎口のような地形から本祇園曲輪に進んでみる



前方が本祇園曲輪

 video



本祇園曲輪/南側から北方向に見たところ

 video



こちらは西側から東方向に見たところ

[video](#)

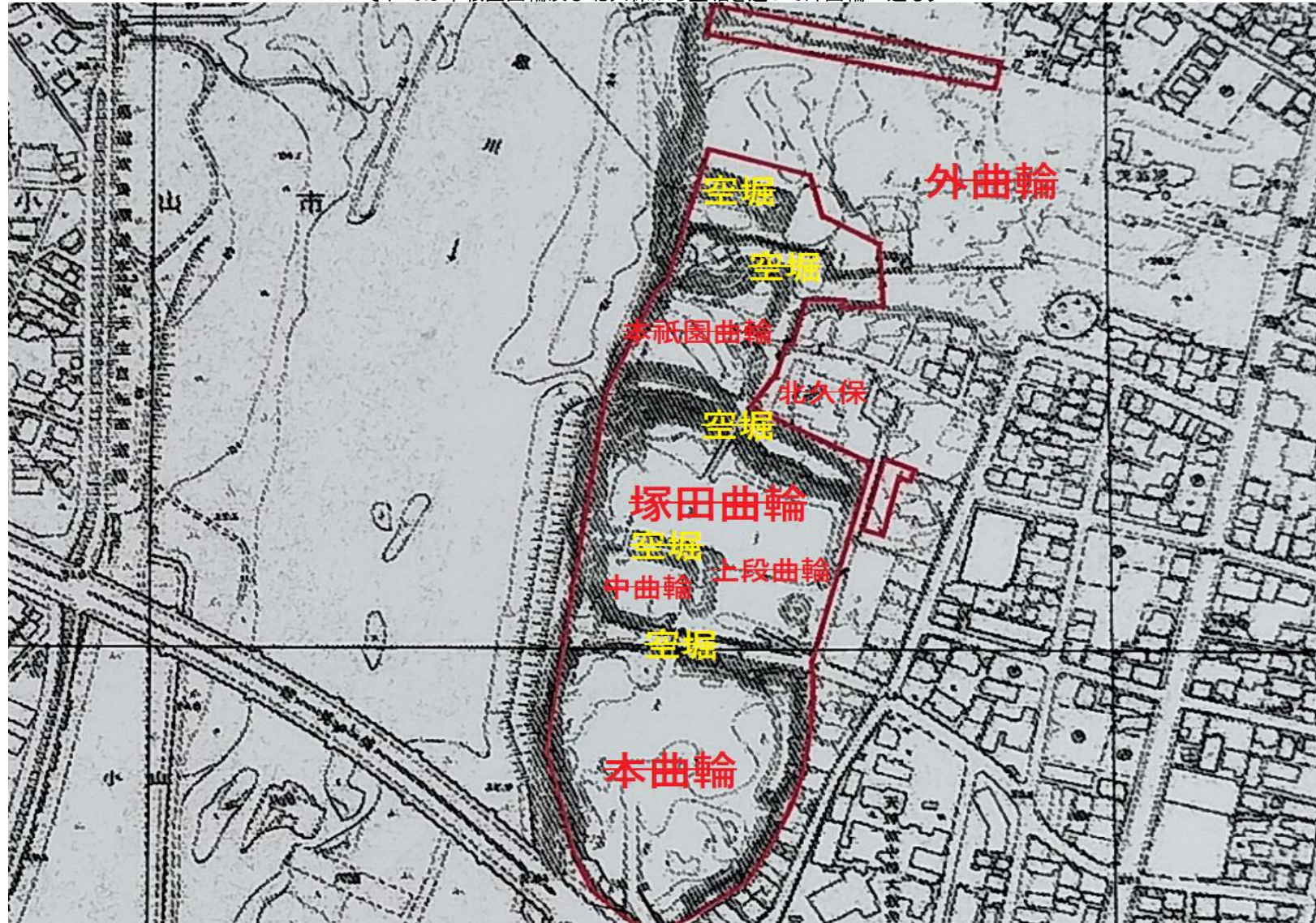


こちらは北側の土塁上から南方向に見たところ

[video](#)



それでは本祇園曲輪及び北久保から空堀を通して外曲輪へ進もう



北久保(右手)と本祇園曲輪(左手)との間の空堀を北方向に進むと、外曲輪の城壘が見えて来る

 video



前方が外曲輪の城堡/左手と右手に空堀が枝分かれている

 video



右手の空堀/右手が北久保、左手は外曲輪



左手の空堀/左手が本祇園曲輪、左手は外曲輪



後ろを振り向くと、先程の橋が見える/左手が北久保、右手は本祇園曲輪

 [video](#)



左手の空堀を進むと、電波塔のようなものが立っていた/左手が本祇園曲輪、右手は外曲輪



そこで、振り返って東方向を見たところ/右手が本祇園曲輪、左手は外曲輪

 [video](#)



こちらは右手(東方向)へ進んだところ/右手が北久保、左手は外曲輪

 [video](#)



東方向に更に進むと正面にも土塁のようなマウンドがあった

[video](#)



そこで、振り返って西方向を見たところ/左手が北久保、右手は外曲輪



土塁のようなマウンドを見てみよう

 video



マウンドの上に祠が祀られている

 video

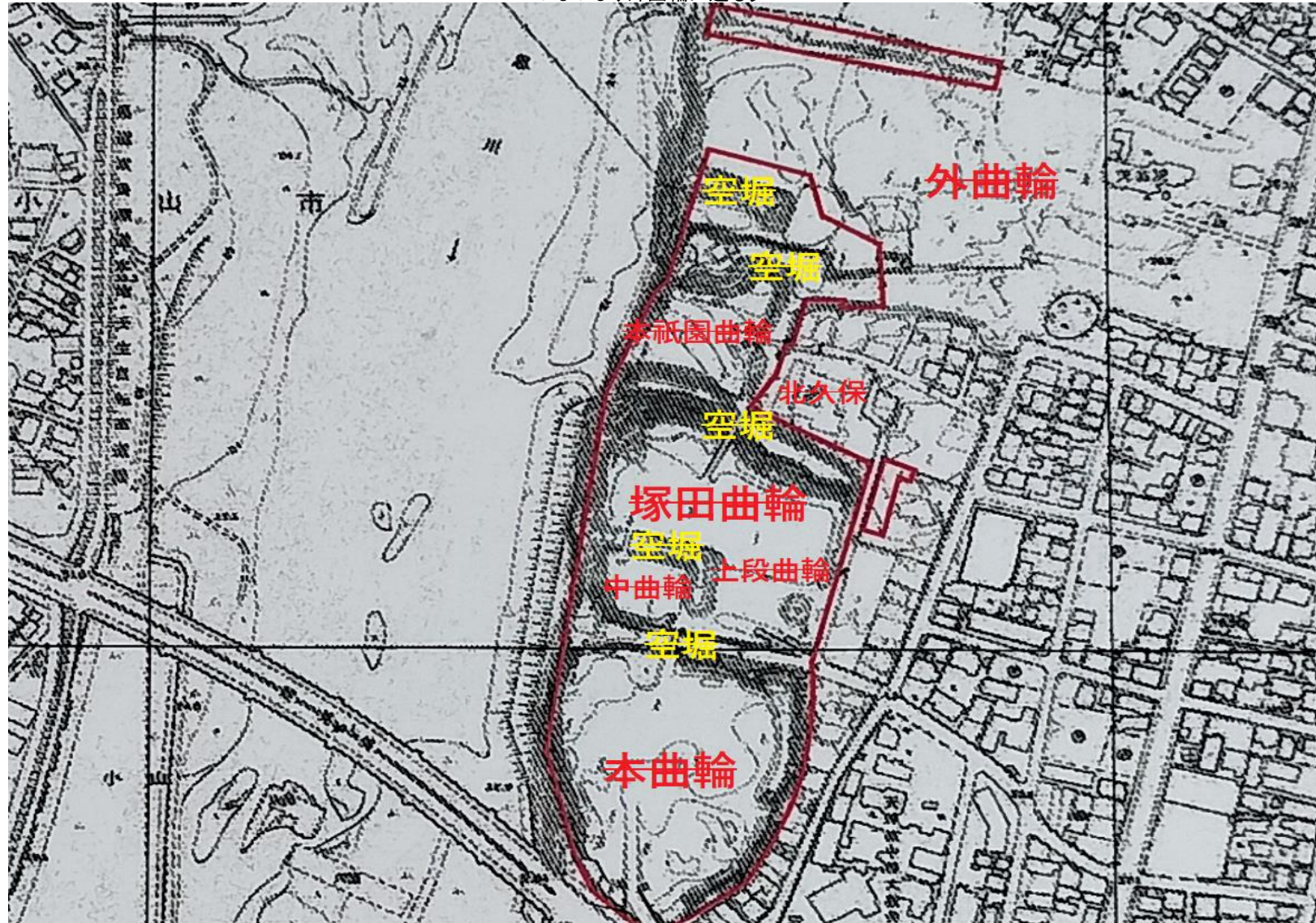


こんな塩梅

 [video](#)



いよいよ、外曲輪に進もう



ここは外曲輪のエリアに所在する天翁院/小山氏の菩提寺



外曲輪/本堂が建っている

[video](#)



これは本堂の裏手の外曲輪/土塁が巡っている

 [video](#)



南方向を見ると北久保(左手)と本祇園曲輪(右手)に架かる橋が見える



右下を見ると本祇園曲輪と外曲輪の間の空堀も見える



西側から東方向に見た外曲輪

 video



そこで、振り返ると思川が見える



ここは境内に所在する小山氏累代墓所

 video



初代小山政光供養塔

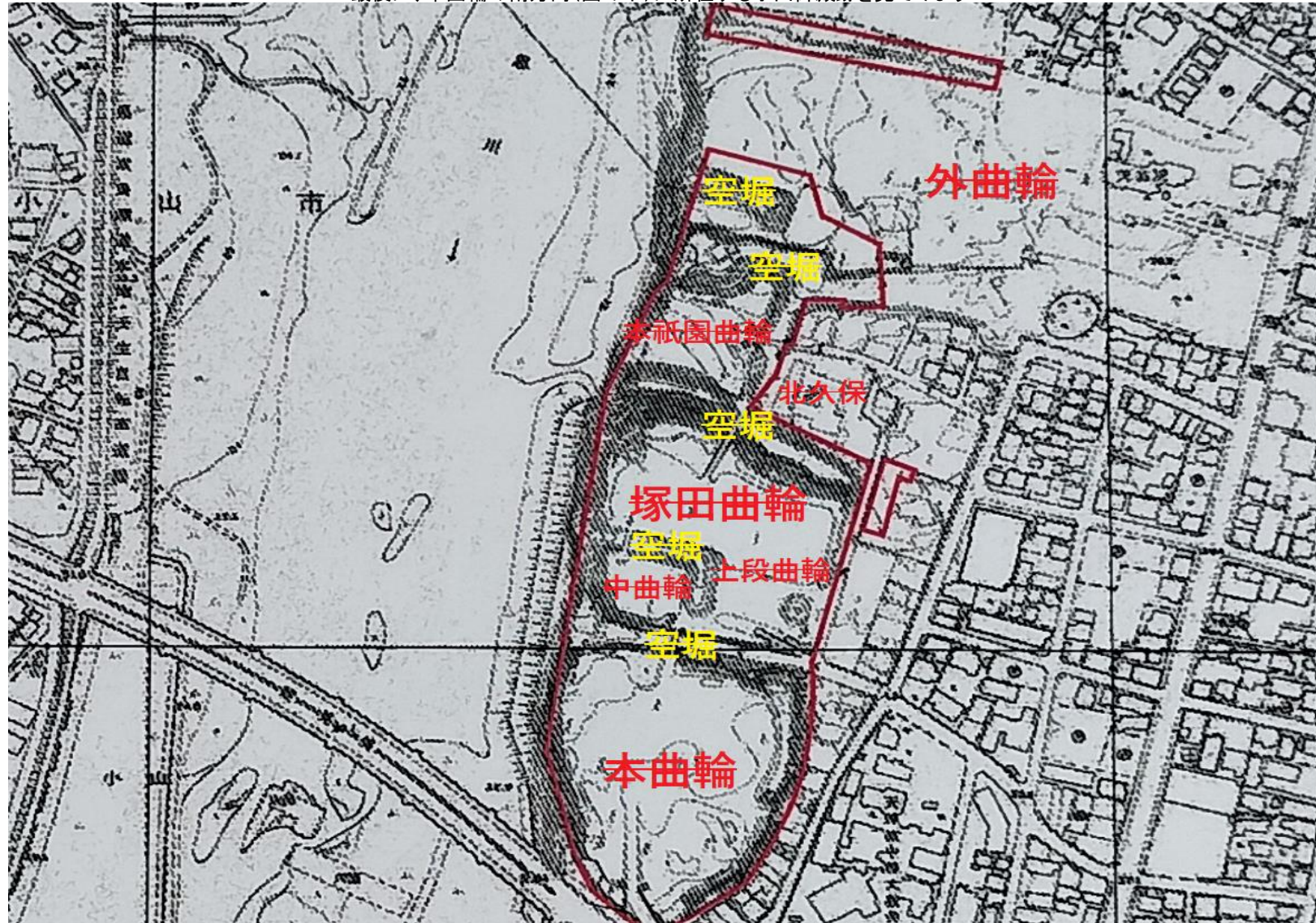


video

初代小山政光之碑



最後に、本曲輪の南方向(図の下)に所在する小山御殿跡を見てみよう



小山御殿跡/小山市役所(左手)に隣接する広場となっている/今日はイベントが行われているようだ

 [video](#)



説明板が立っていた



祇園城は江戸時代初期には徳川家康の重臣・本多正純の居城となるが、元和5年(1619年)廃城/その後、元和8年(1622年)に徳川将軍家による日光への参拝(日光社参)の際に休憩・宿泊する施設として祇園城の一角に設けられたものが小山御殿/しかし、4代将軍家綱以降、日光社参は行われず、天和2年(1682年)に古河藩によって解体された

小山御殿広場

小山氏と祇園城跡

小山氏は、天慶3年(940)に平将門の乱を鎮圧した藤原秀郷の子孫で、12世紀中頃に、政光を初代として成立しました。政光の妻が源頼朝の乳母だったこともあり、頼朝に味方し、鎌倉幕府の成立に大きな力となり、幕府の御家人として東日本屈指の勢力を誇っていました。14世紀後半の小山義政・若犬丸の乱で、下野守護であった義政は鷲城や祇園城などを本拠に鎌倉府軍と戦いましたが、これを境に小山氏の勢力は著しく衰退していきました。祇園城は、この乱以降、小山氏の居城となったと考えられています。名称は、城内に祇園牛頭天王社を祭ったことに由来するといわれています。

戦国時代になると、小山は北関東の要衝であることから、越後の上杉氏や小田原北条氏がたびたび祇園城に攻め入りました。天正18年(1590)、豊臣秀吉が北条氏を攻略して天下統一を果たすと、北条氏に属していた小山氏は、領地を没収されてしまいます。

江戸幕府の成立後の慶長12年(1607)ごろ、徳川譜代の本多正純が3万石余で小山に封じられるとその居城となりましたが、元和5年(1619)正純が宇都宮に移封されると、廃城となりました。そしてこの一画には、徳川将軍家の日光社参の際の休憩・宿泊所として「小山御殿」が造営されました。城内の南の領域は慶長5年(1600)7月25日にいわゆる「小山評定」が開かれた地と考えられています。



年号	西暦	主な出来事
治承 4年	1180	小山清光の妻(源氏)が、頼朝に嫁いで再嫁。
建永 2年	1183	小山義政、反頼朝方の志保義弘を破る。(野木合戦)
建久 3年	1192	頼朝、足利大將軍に任ぜられる。
文治 3年	1187	頼朝、頼朝より軍・物資の援助を受ける。頼朝に任ぜられる。
寛弘 2年	1230	小山義政、所領・所領を没収される。
建武 3年	1336	小山氏、足利氏に臣従し、頼朝義政を破る。
建永 2年	1380	小山義政、宇都宮義興と戦う。
永徳 元年	1381	小山義政、建永府軍と戦う。頼朝を破る。頼朝城に入る。
永徳 2年	1382	小山義政、頼朝城に侵入し、頼朝に臣従する。頼朝に破れる。頼朝に臣従する。
享徳 3年	1386	頼朝の子若犬丸、頼朝城にて死去。
応永 4年	1397	若犬丸、奥州吉田にて自害する。若犬丸の子、六郎に送られる。小山氏滅亡。
応永 11年	1439	頼朝氏より御殿を造る。小山氏(西側)に頼朝小山氏。
永享11年	1439	永享の乱(1438〜)。頼朝城、建永公方の頼朝氏に攻められる。
永享12年	1440	頼朝合戦(〜1441)。頼朝城が小山御殿(祇園城)に攻められる。小山氏力尽きる。
永禄 6年	1563	頼朝の上杉謙信、頼朝城を攻められる。
天正 3年	1575	上杉謙信の北条氏、頼朝城を攻められる。
天正10年	1582	頼朝氏と北条氏の戦いにより、頼朝城が小山氏に攻められる。
天正16年	1589	豊臣秀吉、小山御殿北条氏を破る。頼朝城は豊臣公方の頼朝氏に攻められる。
慶長 5年	1600	徳川家康、小山御殿を破る。
慶長 5年	1603	徳川家康、足利大將軍に任ぜられる。
慶長13年	1608	本多正純、城主となる。
元和 5年	1619	本多正純、宇都宮移封。(祇園城跡)
天和 2年	1682	小山御殿解体される。

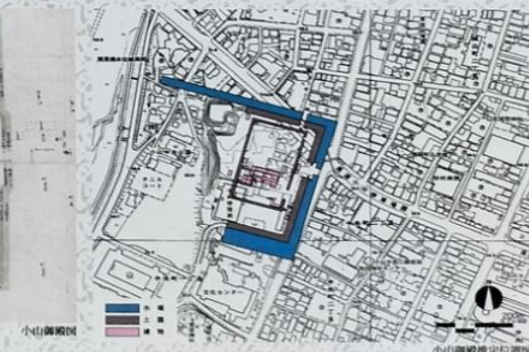
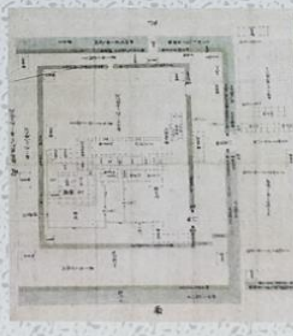
小山御殿

小山御殿は、徳川将軍家の日光社参の際の休憩・宿泊所として設けられました。慶長5年(1600)の関ヶ原の戦いの直前におこなわれた「小山評定」の吉例になったものといわれています。

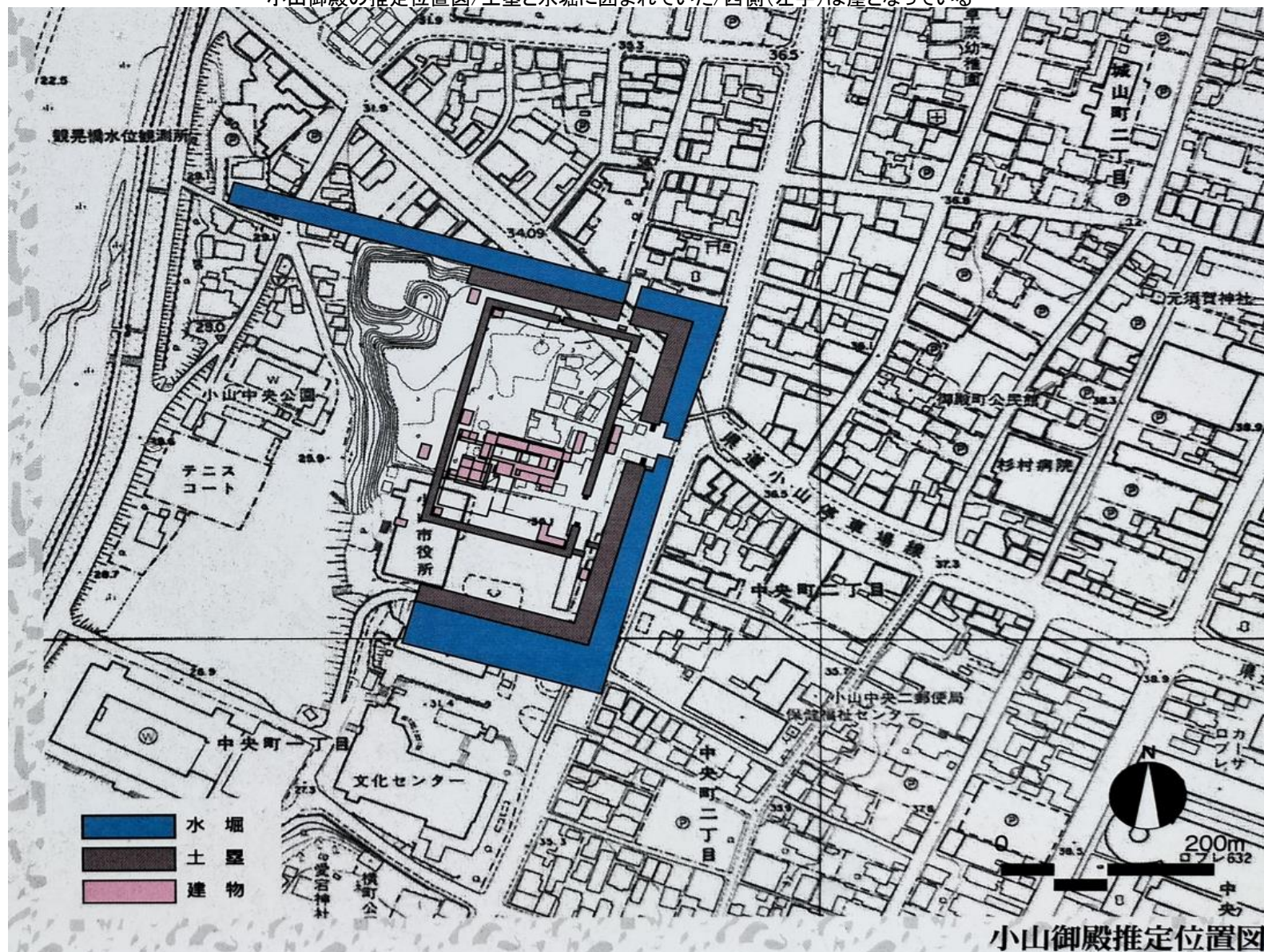
徳川家康は元和2年(1616)4月17日に没し、翌年日光東照社(後の日光東照宮)にその遺骸が改葬され一周忌が営まれます。それ以来、日光は徳川将軍家の聖地となります。将軍家の日光社参は19回に及び、なかでも、三代将軍家光は10回、日光参詣をおこなっています。

小山御殿はかなり重要な配置になっていたようで、周囲に堀が廻り、土壁が二重に築かれ、敷地内には16ヶ所に御番所が設けられていました。

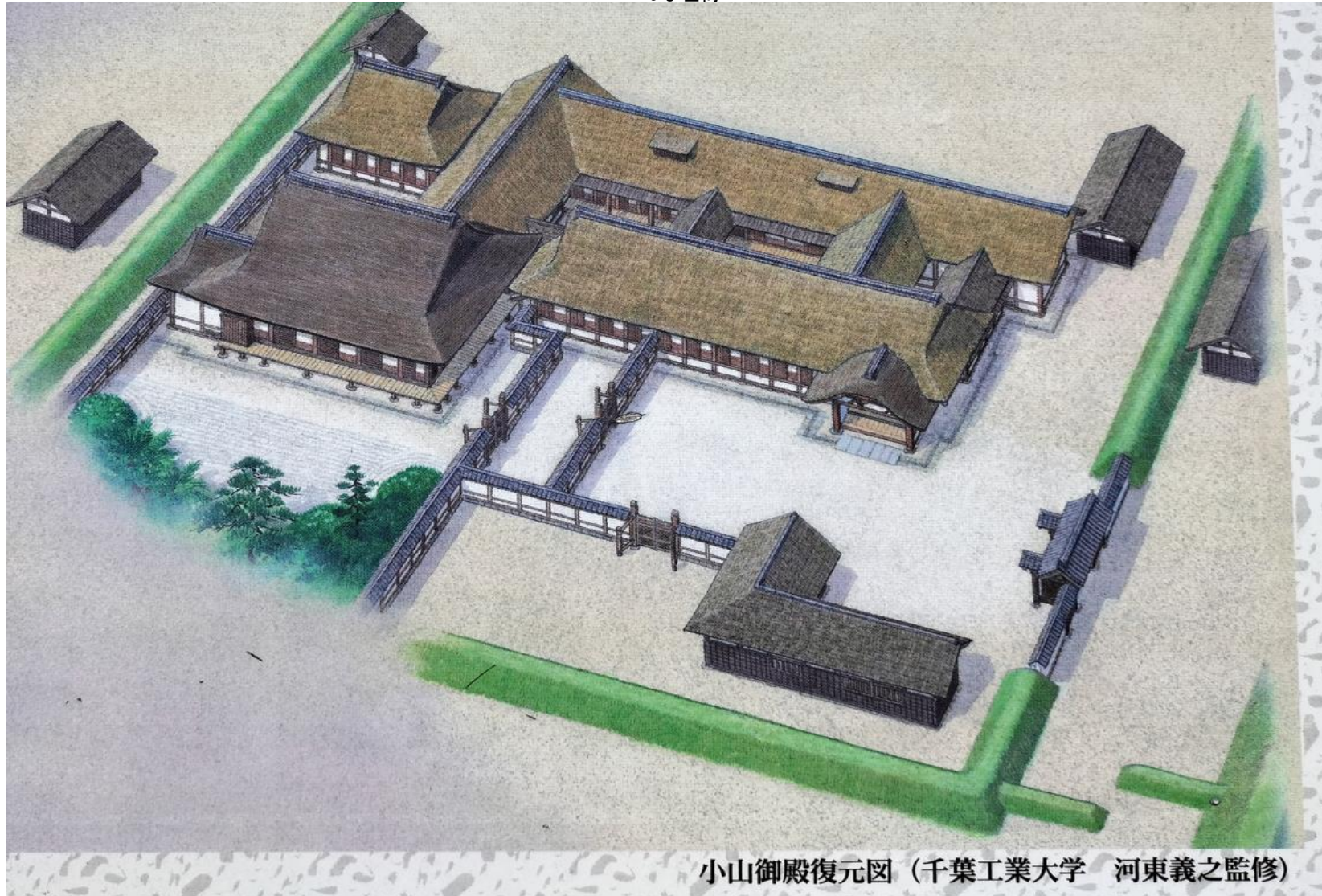
将軍家の日光社参は寛文3年(1663)に四代将軍家綱がおこなって以降、八代将軍吉宗が享保13年(1728)に再開するまで財政難のため中絶します。この間、大風によって建物の一部が壊れてしまったこともあり、小山御殿は天和2年(1682)、古河藩によって解体されました。



小山御殿の推定位置図/土塁と水堀に囲まれていた/西側(左手)は崖となっている



こんな塩梅



小山御殿復元図（千葉工業大学 河東義之監修）

北側から小山御殿跡を見たところ

 [video](#)



そこで、右手を見ると西側の崖側が見える

 video



右手の崖部分に進んでみよう



左手には、入り込んだ崖が見える

 video



崖の先端で、振り返って東方向を見たところ

 video



左手の城堡を見たところ

 video



そこで、右手を見ると西側の城壘が前方（南方向）に続いている



少し退いて見たところ



西側の崖下から東方向に城壘を見たところ

 video



そこで、右手を見ると西側の城堡が南方向に続いている

[video](#)



さて、これは市役所の南側にあった石碑と標柱

 video



「小山評定跡」とある



慶長5年(1600年)、関ヶ原の戦い直前の7月25日に、小山で開かれた歴史的軍議である「小山評定」の地という

小山評定跡由来

慶長五年(一六〇〇)七月二十四日、徳川家康は、会津の上杉景勝を討つべく小山に到着しました。

このとき、石田三成が家康打倒の兵をあげたことを知り、翌二十五日この地において軍議が開かれました。これが「小山評定」といわれるものです。

軍議は、三問四方の仮御殿を急造し、家康と秀忠を中心に、本多忠勝、本多正信、井伊直政や福島正則、山内一豊、黒田長政、浅野幸長、細川忠興、加藤嘉明、蜂須賀至鎮らの諸将が参集しました。福島正則が協力を誓い、これをきっかけに軍議は

家康の期待どおりに決まりました。同年九月十五日、関ヶ原の戦いがおこなわれ、東軍(徳川方)の勝利にむすびついた歴史上重要な所です。

